

Faint, illegible characters on a faded rectangular label on the left side of the book cover.



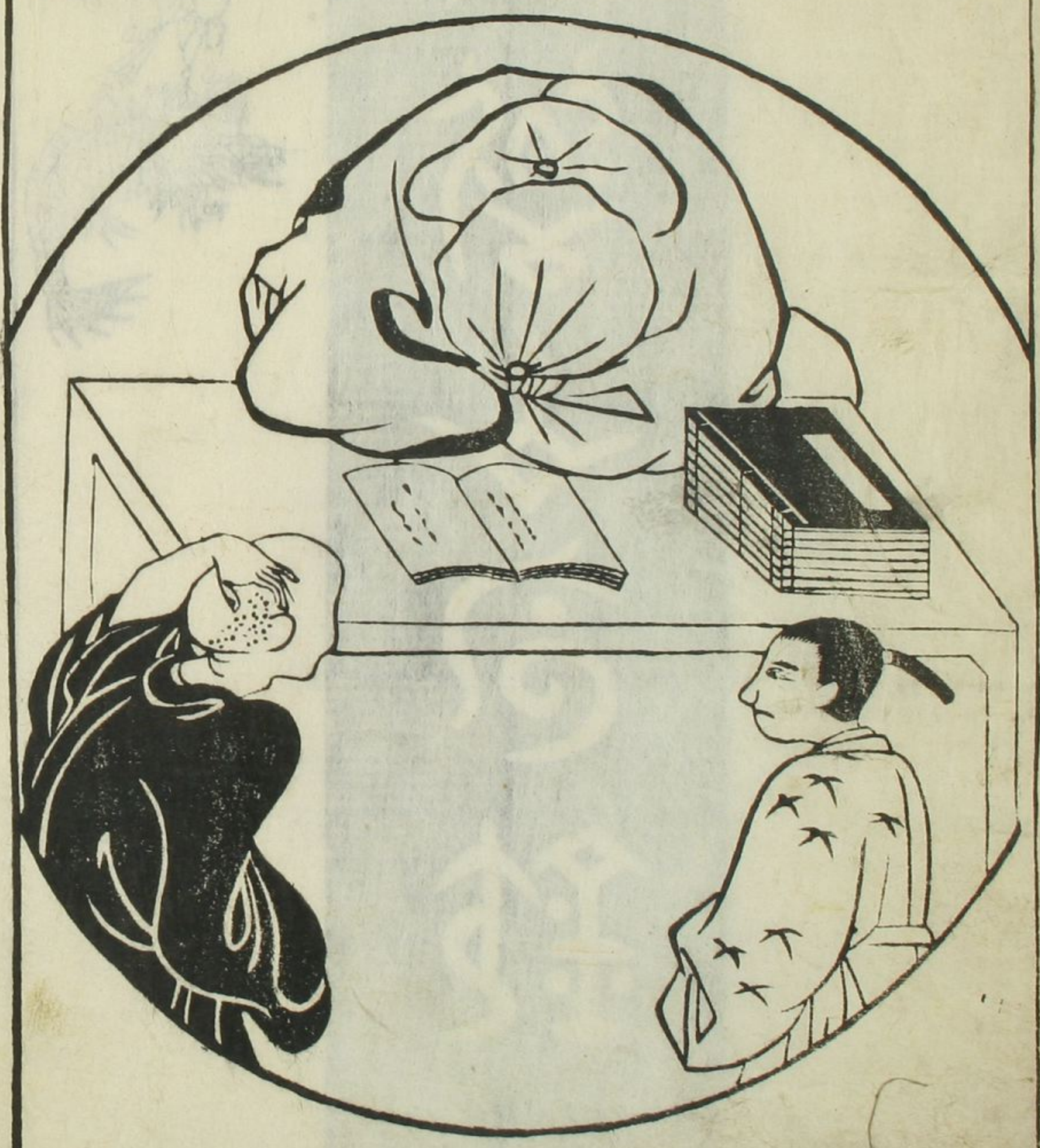
White rectangular label in the bottom right corner of the book cover containing the following text:  
^ 5  
1864  
1



排  
驚  
女  
包  
鈇



# 家類圖



他部古今抄巻之上

物志序



蓮二房

今以他部古今抄巻之上  
 一滑程首此子と野 孔所の六程に名とありて  
 了訓諫の二道と他く一と素原の諫をいし名と  
 稱して滑程首いふは能諧のこゝとて午疑一決  
 のゆゑあるより傳仰を我のしりていふれり諫  
 とる家の秘法といふをいふれりたれと我のいふ  
 けりていふりていふれりたれと我のいふれりたれ

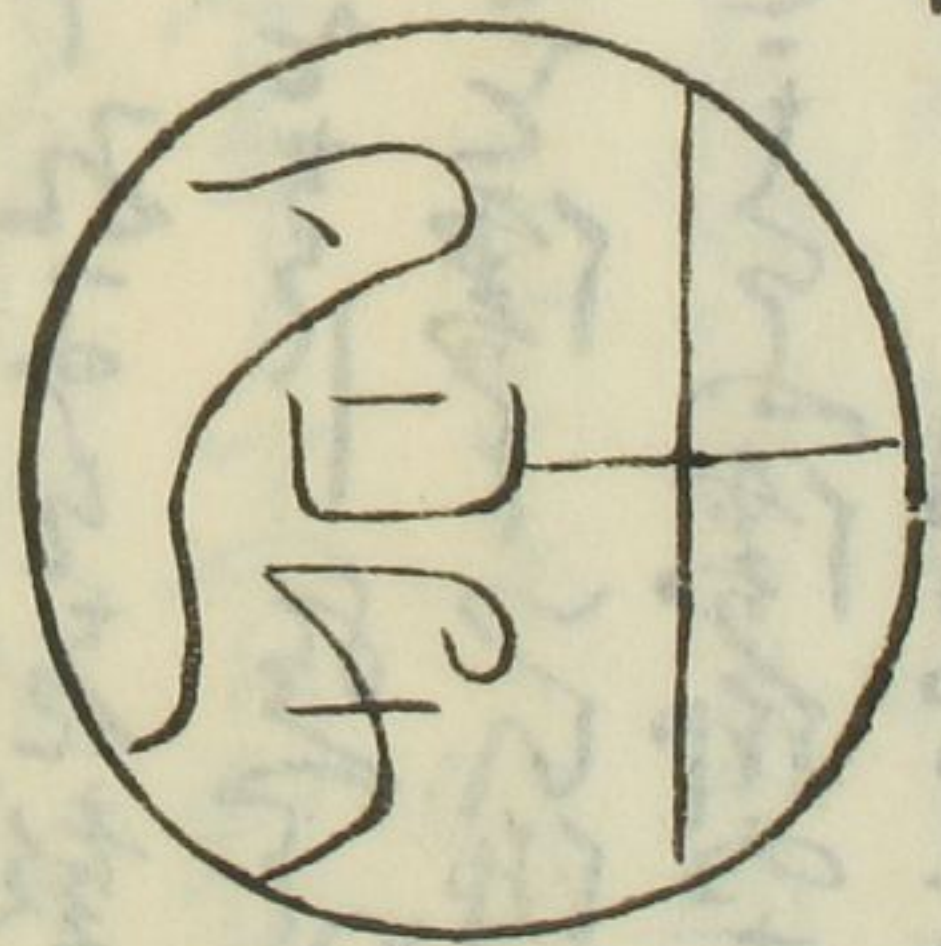






一 臣の私とわれさかんあはるる國のいふ  
此の石の鑿れ而る神と諸君の  
おのゝりとの林れどもあまの御孫  
はつて休諾のこころはよくたす

享保己酉二月去祥日



古今抄凡例

- 一 此抄ニ〇合イ按スト祖翁ノ用捨ナリ其下ニ新古ノ  
遠因ヲ考ヘシ△再フ撰ヒト先師ノ監定ナリ△ニイ校ス  
ト六連ニカ拾遺ナリニ以テ今ノ相致ニ知レシ
- 一 此抄ニ要評ト要議ト明監ト之段ノ差別アル法ニ  
支配ノ輕重アル座ト云ク一書ト云ク百書ト云クナリ  
總テハ新古ノ決論ニ百慮一失ノ辭宜ト知レシ
- 一 此抄ノ省法ノ下ニ或ハ家語ノ詞ヲ假テ實ニ極ノ二字ヲ  
云ハレ制度ニ時代ノ要又シ云ク或ハ用ル其本人ノ自在

三テ用オハ其人ノ不自在トハ今式ニ人ヲ弘明セスおちト  
 古風ノ偏屈ヲ山明トナリ或ハ先師ノ再撰トナシおち  
 如是トハ弘經ノ如是我聞ニ滅後ニ再撰ノ折言語ナリ  
 一 此抄ニ證句ヲ奉ルニ系ヲ定テ各乗ナキハ總テ祖翁  
 ノ證句ナリ系ヲ定メズハ此印ヲ書テ直ニ送書ナリ  
 多ハ先師ノ證句ナリ但シ別人ハ句下ニ其名アリ  
 一 此抄ニ里園ノ印ハ總テ文法ト句格ナリ然レテ文字  
 ノ傍ニ隔テ白園ノ印ハ或ハ切字ノ節目ト知ヘク  
 或ハ對語ノ相致ト知ヘク或ハ段ノ要文ト知ヘシ  
 一 此抄ニ古式トハ多ク連音ノ兩式ヲ指シ古抄トハ貞徳ノ

法り筆ヨリ埋木り噓り竹ノ類トト一部ニ埋木ノ名ヲ指  
 カル師資ノ辭讓ヲ安ホスキナリ或ハ稀ニ本式ト  
 云ハ今ノ貞吉子式ノ本々ヲ指テナリ  
 一 此抄ニ異名異躰トハ或ハ牡丹ヲ汝見草トハ異名  
 ナリ牡丹り詳トハ異躰ナリ或ハ音訓ノ差別トハ自雲  
 シシララモト云フ凡各異ニシテ躰ハ同シ此故ニ田兵各  
 一ト云ク異躰トト云ハ今式ト古抄ノ透同干箇條  
 ノ古法ト下ニ悉知スヘシ







貞享式目録

大段は本式ノ目録ナリ  
小段は再撰ノ附録ナリ

- 一 俳諧と雑諧ノ字論也事
- 一 他諧と詠練の道ある事
- 一 六義ノ今の和訓也事
- 一 又段向ノ切字せる所ある事
  - 附 心切の事
  - 附 中切の事
  - 附 推切の事
- 一 切ノ之階の差ある事

- 一 心切ノ多々各ある事
  - 附 二字切の事
  - 附 三字切の事
  - 附 二段切の事
  - 附 一段切の事
- 一 心切と多々各ある事
  - 附 とほりの事
  - 附 とほりの事
  - 附 大廻の事
  - 附 去切の事
- 一 押字と抱字也事
  - 附 句讀切の事
  - 附 無各切の事
- 一 二品のうゝ也事
  - 附 浮哉の事

一 叙哉のり

一 二のりやのり此事

附 三のりこのり

一のりこのり

らこのり

一 百韻、表八句此事

附 發句、比のり、服、籠子のり

才、よ、手、余、波、のり、四、句、同、の、轉、ま、り

一 四折、曲、節、此、事

附 趣、向、と、向、作、のり

撰、集、の、内、秘、のり

一 月、花、此、事

一 指、合、と、去、嫌、此、事

一 意、心、向、此、事

一 季、子、節、の、踏、く、る、物、此、事

附 二、季、子、之、季、子、四、季、子、の、り、の、り、物、の、り

又、又、の、二、季、子、之、向、去、ま、り、の、り

一 季、と、あ、り、の、新、と、あ、り、物、此、事

一 名、取、の、雜、の、發、向、此、事

附 新、躰、の、り、四、季、格、の、り

詠、諧、音、の、り





不自在しつゝ一けぬし世式とひそくに机前の  
三子と云ふて神子御筆より嘯州のとき  
と云ふまゝと云ふと控へまゝと云ふなり耳目の  
公るまゝと云ふ取捨し一字の私あく今や一程此  
真深より近く一世の實義と實心遠く百世  
のめ益はるやう天竺の冥合と云ふまゝや  
と云ふて一知の授記しつゝ世式めあといふ  
は式の名ははるいふる命

貞享五年辰子孟春如忘日

再撰貞享子式

○ 俳諧と誹諧と字論此事

むういり俳諧と誹諧とを和考の家より字論  
あれと神子史記の素隠し滑稽昔猶俳諧と云  
惟ちり世文ありていふははく世評林と誹諧の所は  
いかにて列せらるるを我々の中じつゝ延喜の御代に  
古今集よりけりて誹諧の二子と云ふて和歌の二所  
と云ふより拾遺集もしたれ二子と云ふて用ゆん後  
同名の俳諧ちりや俳と別名の誹諧ちりや古今集

一、副假名をなすれいさるもきくぬと今昔をいひたり  
 一、詠諧ハイカクくしよと事れいさる一、詠諧の如きと  
 一、なかりしをさうしハヤハおとす解九不あり  
 一、詠諧ハイカク二、詠諧ヒカク三、詠語四、滑稽言  
 一、法輔の奥後おしよゆ一、宗祇の言りまうと詠ハ  
 甫尾、坊より詠ハ朝寄坊とあれい詠諧と詠諧を  
 不ろ各より詠諧の非比有るものと今昔をいひたり  
 一、より代く一、詠の字と用いさう一、非比坊よりあり  
 一、なるとありさるふあれい詠の對し一、宗祇を  
 一、原にれとるもの秘訣といひ一、詠諧は詠諧

二、とてせつむせ

東巻云△再撰タヒするんけ詠をほく一、人偏の  
 俳字ハイジしは一、一宗祇建まのま地とてなれと  
 矯世キョウセ憤俗フンソクとてつるなをの書に由過當とけり  
 一、他より宗祇をいふとて例一、我々の  
 一、遜言ちりせとて一、詠論より連なり此亦詞  
 一、かりし詠諧の名と増減し一、今の詠諧は  
 一、常用とていふと大異の故とあり一、詠諧は  
 一、あつくと詠諧の遊戯ちりとときあつくとけり  
 一、詠諧の空に戯ちりとあつて中右の詠おの用





諷諫し諫美し諷勸育し諷諭の諷らふとやら  
 して諷らむとあれせはと又倫の和と本と  
 君父の善ととては婦中の善とては  
 善と善とて悪と悪とて直言とて直諫  
 されし時主人の機嫌とやいふと善と  
 大なるとつやせとれしむらうと王といふ  
 忠ととあはれしとあれし善とありんか  
 儒師の二言と感た動さるれと感と善なる  
 日とあはれと殿村のときと忠王といふ  
 忠とらりて比干の腹と忠とらりて  
 忠人の肝

とけくらしむらふと人間の善悪とら  
 十方遍照の光ぬとくあらはれ  
 とあはれしと人の中けて我を  
 けぬと楚の子西と忠王の忠と  
 諫美しと楚王の忠ととらら  
 忠とて儒師のまじり諫官の互  
 とらり最上の善とあはれ子西  
 儒師も師のまじり諫官も  
 う忠とてくちりてとら善人と  
 親せるとれまじりとら忠とあ  
 忠と



わさねまゝ詔讀よかりしも五七此句法と言語の  
ありいふて例の詔讀よかりし公道とあり例此  
詔讀よかりし公法とありしとありし例の建る  
不ししむ亦月をせし世無議よりるる也

東老云け一語の要文と信仙の公法は遠と  
詔一若老の人此高奉と詔一詔讀よかり  
世法の隨一とありしとと建所のきと地と  
ついで下字と建の用とついで文章此虚の文  
うに勅破ましくしはありしとありし大言の  
若子の虚読の事とありしとありし天道

の夫とよくありし人道のふと出をましくせん  
虚の文の虚の文とありしとありしとありしと  
他法の様をましくしはありしとありしとありしと

高奉ありし

○六義我の今の和訓此事

詩言に六義とありしとありしとありしとありしと  
我の言に六義とありしとありしとありしとありしと  
其の言に六義とありしとありしとありしとありしと  
各同しとありしとありしとありしとありしと



中ありて先と我々の家護しより

風

訓義我凡ハ詠諭ナリ多ハ言ト訓スレ和歌ニ  
ハ副歌ト訓ス下比真ニ躰ニ給ハレ毛詩曰風者  
多出於里巷歌謡之作男女相與詠歌各謂  
其情周南召南親被文王之化ニ言ハル風詩  
之正經云然ハ其国其人ノ風俗ノ善惡ハ風謡ニ  
依副テ差互ニ云ル故ニ凡化トモ註セシナリ○今按ルニ  
凡化モ風俗モ總テ詩歌ノ訓諫ニテ上所化曰風  
下所習曰俗トモ上ハ凡化下下ハ風刺上トモ云リ  
何レモ時代ノ風謡ニテ録倉代ニ葛蒲ノ謡ヲ作りテ

雅

其代ノ俗樂ヲ刺ス類ナリ○獨按スルニ我家ノ訓  
美ニ凡諭ニ字ノ意ヲ運ヒテ諭言凡訓スヤヤ  
然ラハ俳諧ノ宗ト成セ凡詠諫ノ和モ叶フヘシカ  
去レ凡名ノ太騷トハ世ノ明監ヲ待ヘシ  
訓美ニ雅ハ正ナリ直ナリ多ハ正言ト訓スレ和歌  
ニ直言歌ト訓ス下平語ノ徒言ニ給レ又ハ  
俳諧ハ音訓ノ響音ヲ憚ルヘシ○今按スルニ凡雅ニ躰  
ハ漢土ニ詩經ノ所成ニシテ凡ハ虚ヲ以テ天ニ起リ雅  
ハ實ヲ以テ地ニ止レ詩經ハ世ニ美ニ濫觴ニテ乾坤ノ  
二卷ト成レリ故ニ我家ニハ凡雅ヲ虚實ノ二用

頌

ト見テ以ニ懲惡ノ慮ヲ用イ雅ニ勸善ノ為ニ用  
レ六雅ニ正直ノ意ヲ汲テオホキヤ公言氏訓オホキヤスキヤ此等  
ハ異名同躰ノ例ニテ一セノ衆議ニ據ヘキナリ  
訓美ニ頌ハ稱ナリ美ナリ爰ニ祝言ト訓スレ和歌  
ニモ祝言ト訓シテ引歌モ給ル所ナリ然レ詩序  
ニ雅頌ニ躰ノ様ト下雅ニ國家ノ諷諫ヲ令口ニ  
頌ニ君父ノ壽量ヲ祝シテ神ニ告ル意ハ勿論ニヤ  
此故ニ六美ノ引歌モ頌ノ躰ノ明ニテ其外互各  
ハ給ハレ今按スレニモ詩ニモ雅頌ニ属シ朝廷郊廟  
樂歌之詞其詔和而存其美寛而密正

賦

之於雅以大ニ其規和テ之於頌以要其止此  
詩之大旨也然レ六雅頌ノ二用ヌル外ニ在密ノ  
次ヲ備ヘテ諷諫ノ正直ヲ行ヘソ内ニ和實ノ情  
ヲ含ミテ詩序ノ優美ヲ調ヘレ爰ヲ孔子ノ曰  
給ル文王ノ文ニシテ孔子ヲ我家ノ太祖ト感荒自馬  
和節モ此謂ナリ之經ハ例ノ温厲ヲ知ヘキナリ  
訓美ニ賦ハ鋪ナリ曰聖ナリ爰ニ六美ト訓スレ和歌  
ニモ美歌トアリ又選ノ本ヲ註ニモ象事明白也  
ト云ハ眼前ノ物ヲ美並テ直地ニ次女情ヲ演ル  
謂ナリ定家卿ノ叙文ニモ賦ハ歌人ノ本意ナリハ

四季子二月雪ノ姿相ヲ詠シ花鳥ノ優游ヲ知レト  
ナリ賦ハ殊ニ文章ノ惣名ナリ

比

訓美ニ比ハ比喻ナリ又ニ准<sup>ナツス</sup>言ト訓スヘシ和歌ニモ  
准歌トアリ候ニ托物比魚トハ詩人歌人ノ優情  
ヲ托ヘテ身ニモ木ニモ物ヲ言ハス類ナリ或ハ韻書ニ  
比ニ字ヲ用<sup>ナ</sup>採<sup>ル</sup>キテ比ハ比<sup>カ</sup>於物<sup>ヲ</sup>魚<sup>ハ</sup>托<sup>ス</sup>事<sup>ヲ</sup>於物<sup>ニ</sup>  
云ヘリ○今按スルニ比ト魚トハ姿情ニ先後ノ心得アリテ  
比ハ物ヲ取テ其姿ニ准テハ魚ハ物ニ托テ其情ヲ起ス  
物ヲ催スト物ニ催スト自他ノ差別ヲ知<sup>ル</sup>ナリ此等ヲ  
他語ノ微中氏解紛<sup>ニ</sup>云ヘキナリ

興

訓美ニ魚ハ誘引<sup>ナ</sup>美ナリ又ニ誘<sup>ナ</sup>言ト訓セシ和歌  
ニ喻<sup>ナ</sup>事ト訓レスト凡比ニ訓<sup>ス</sup>然<sup>ル</sup>ハ然<sup>ル</sup>ニ魚<sup>ノ</sup>字  
ト凡字ノ和訓ハ美ノ中太<sup>ニ</sup>強<sup>シ</sup>テ我内ノ象<sup>ニ</sup>議<sup>ハ</sup>  
知是<sup>ト</sup>レト百世ノ明<sup>ニ</sup>照<sup>ル</sup>ル<sup>ル</sup>也<sup>ナ</sup>ナリ○今按スルニ魚ハ  
一美ハ和<sup>ニ</sup>後<sup>ト</sup>モ二今<sup>ノ</sup>明<sup>ナ</sup>ラヌヤ去<sup>ル</sup>ハ論語ノ陽<sup>ニ</sup>化<sup>見</sup>篇  
ニ子路<sup>ニ</sup>詩<sup>經</sup>ノ風<sup>流</sup>ヲ勸<sup>テ</sup>詩<sup>ハ</sup>以<sup>テ</sup>可<sup>レ</sup>興<sup>ス</sup>トハ四季子  
ノ月雪花鳥<sup>ニ</sup>誘<sup>テ</sup>優<sup>游</sup>ノ情<sup>ヲ</sup>興<sup>セ</sup>トノ  
謂<sup>ナ</sup>ナリ然<sup>レ</sup>ト例<sup>ノ</sup>朱<sup>註</sup>ニ發<sup>起</sup>志<sup>ニ</sup>氣<sup>ト</sup>ノ  
云捨<sup>レ</sup>孔子ノ宣<sup>給</sup>フ似<sup>テ</sup>而非<sup>ス</sup>ル物<sup>ニ</sup>ヤ興<sup>ハ</sup>  
決<sup>シ</sup>テ遊<sup>魚</sup>ノ興<sup>ト</sup>註<sup>ス</sup>レシ詩<sup>者</sup>人心<sup>ノ</sup>之感<sup>也</sup>















と其の神のこゝれを若かりしと傳へた物名お  
とよをさるやけ格となし新制なれん冥河  
の例のしりまや或と給の類とさしつら給ふ  
伊弉諾とあふそと方らうらぬとたれと  
常られそと常らぬと神とそとと敵討  
これとと再撰の神句をねおしすと  
或と連系しと能信しと能ゆしとあり  
両家のや句のあやあれしと論とねんと能北  
るおとあし。かう接するた連系しと日月市の代  
句とあひし。其のあま凡て分のゆのこも能おし

神書の代句とあひし。そのあに辭定むものこも  
いさく日月雨と神書のあ句ありしや切字は  
入るあま句あし。そのあに能ゆしと能くしと能  
の例のこふちりし。そのあに能ゆしと能くしと能  
之段切  
其のあま。そのあに能ゆしと能くしと能  
前奉と武江のあ浪士と能合のあしありはれ  
け句の能まるあしと能ふと能たしといはし。耳  
のあしと能くしと能らるる。能果を互見の法と  
ねとと能の能とさるし。後奉と能あし。能あ

ありんさうし此優海へ横にありんぬ。業しあり  
はうと此をさう。後へけいある一抄りか下  
きり以括あうしつめ業あり括物く言あへし  
結前生後の係ありしと後へと横に業のほや  
とつらう十成の能階解ありとれしと二階の曲第  
とありん一と業あり向中へ切字ありしとれし  
そと此差ふとのしと二階と例のこふちり業を  
二子切ら子切の例しと二階切のありんこれ連記  
のち抄しと名あられし自家の能向とありんよ  
るありんこれ一との業後と業ありん一

東巻云△再撰さるんは切の能階を能向の  
此ちり切字ありしとらうしと切の能階と二階を  
分編しと二階しと二階ありんこれとちあり二階  
の名目あられしとらうしと切あり又月あり連記  
の古抄ありとらうしと二階の能向ありんこれ  
例の述而不作とらうしとらうの能階と信あり  
はらうしと二子切ら子切の名あられし二階の能階  
ありんこれとらうしと切あり能向ありんこれと  
再撰の能階とありんこれと一との能階ありん  
めしと一との能階とありんこれと一との能階ありん

再撰

三



二條坊 夕よしのあふはたはくまの風のむ  
空舞に。空まの舞に。を中

たれはつたのむいふいふにあふ月の夜をよび  
あふむのむあふまへして夕よしのあふむあふむ  
あふむあふむあふむにあふむあふむあふむあふむ  
詞の双園うへてはあふむあふむあふむあふむ  
空せし空舞を枯木寒の石の歌あふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ

あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ

あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ  
あふむあふむあふむあふむあふむあふむあふむ



ふとわくくまをわしとてあてらる切あれし万代一現  
の儒師の書はるる月と初子のきりらとてあて  
まうら古あのとまうらとてあての字は一をいふて  
ふては白とあてまうらとてあて

とほい まくくしあてらる物と 唐書

まくくたなどとあてらる唐書

ふてあての字はるる月と初子のきりらとてあて  
あての字はるる月と初子のきりらとてあて  
ふてあての字はるる月と初子のきりらとてあて  
あての字はるる月と初子のきりらとてあて

とてあての字はるる月と初子のきりらとてあて  
ふてあての字はるる月と初子のきりらとてあて

東蒼云けうきと湖南の邊境ありて前を  
とてあての字はるる月と初子のきりらとてあて  
後らとてあての字はるる月と初子のきりらとてあて  
証證のきりらとてあての字はるる月と初子のきりらとてあて  
河津を減はし再撰のたよりとてあての字はるる月と初子のきりらとてあて  
の字はるる月と初子のきりらとてあての字はるる月と初子のきりらとてあて  
とてあての字はるる月と初子のきりらとてあての字はるる月と初子のきりらとてあて  
とてあての字はるる月と初子のきりらとてあての字はるる月と初子のきりらとてあて

といふおて千六の歳をばあるより字をば  
 し海とありとありけりといふはむねをばと  
 といふていふや今とて再撰の場とていふ  
 一巻の新断とありの歳字といふの巻とて  
 耶字といふの巻と持ていふは月日の記と  
 もありむね多きをといふはむねとていふ  
 八十歳といふ記の五百と條とありと  
 百千と億といふ記と一とありと  
 各ありといふとていふとて  
 ありけり

けり或月の増減ありとていふは  
 といふといふ昔の御命ありといふは  
 ありといふやいととて遺稿の大任とて  
 御の御後といふとていふ

桐の木の。新断とあり  
 桐の木の。むとあり

されい新の一巻とて田兵衛の御命とていふ  
 ありといふはありといふはありといふは  
 ありといふはありといふはありといふは  
 ありといふはありといふはありといふは

桐は新にもあや田家と行はるるなり  
新神ありけり句と切りて塚の田と隔りて  
あもも況や新ららるるをのたに古歌の禁入  
ちのちやふらぬや。あや田家と行はるるを  
田家のまじりていふにけり。桐のまじりて  
とあや田家のまじりていふにけり。桐のまじりて  
の辨しきりてなかりとあや田家のまじりて  
あや田家の論あや田家のまじりていふにけり  
とあや田家の論あや田家のまじりていふにけり  
とあや田家の論あや田家のまじりていふにけり  
とあや田家の論あや田家のまじりていふにけり

このころ官家も権はのまじりていふにけり  
富もちり物やまじりていふにけり。桐の  
時々の命とあや田家のまじりていふにけり  
暖かい居柿倉の懐はあや田家のまじりて  
去来と武りの功とあや田家のまじりて  
移りていふにけり。桐のまじりていふにけり  
あや田家の論あや田家のまじりていふにけり  
今世の常の法とあや田家のまじりていふにけり  
それの押印の同くあや田家のまじりていふにけり  
あれいむとあや田家のまじりていふにけり

とはくくらのや△再撰もつたけけと和歌の  
 我あしあへく。あひまひまひ或るさひさひ。との  
 うまひくふと。たまりくも通例あけく。ひひ二章  
 いふあひのしあひくも切ももあひたけけけ  
 抱字まし舞田のこまとまるまあひととあひ  
 の曲あひあひあひあひあひあひあひあひ  
 初あひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
 どのあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
 一今れあひあひあひあひあひあひあひあひ  
 或る古れあひあひあひあひあひあひあひあひ

であひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
 玄妙のあひあひあひあひあひあひあひあひ  
 ねしあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
 切字とらへく極むく。一は格とらへくあひあひ  
 いあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
 のあひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
 此あひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
 一極むくあひあひあひあひあひあひあひあひ  
 あひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
 久あひあひあひあひあひあひあひあひあひ











